








議長	局長	課長	課長補佐	係長	課員
					 

様式第4号（要綱第3条関係）


令和 7年 5月20日

田村市議会議長 大橋 幹一 様

会 派 名 政友会

代表者名（議員名） 猪瀬 明 

政 務 活 動 報 告 書

区 分（○で囲む）	<u>調査研究</u> 研修 広報 広聴 会議 / 要請・陳情活動
期 間	令和 7年 4月 21日(月)～ 令和 7年 4月 22日(火)
参 加 者 氏 名	猪瀬 明 蒲生 康博 大河原孝志 橋本 紀一 吉田 一雄
訪問先の応対者 〔名刺の写し添付〕	別紙添付
場 所 〔調査、研修、訪問先 要請・陳情場所等〕	・荒川産業株式会社（喜多方市） ・栃木県 矢板市(やいたし)
行 程 (別紙添付も可)	別紙添付
内 容 ・ 成 果 等	別紙政務調査報告書添付 

田村市議会議員 政友会 政務調査実施報告書

政務調査議員 政友会 猪瀬 明 蒲生康博 橋本紀一
吉田一雄 大河原孝志

政務調査日 令和7年4月21日(月) 9:20~14:10

政務調査先 福島県 喜多方市(きたかたし)
・荒川産業(株) 資源リサイクルに対する取り組みについて

政務調査目的 田村市においてもゴミ問題、さらには資源ごみや、学校給食残渣の処理等が多く問題視されています。県内の荒川産業株式会社では、様々な資源をリサイクルしている会社であります。収益金の一部で非営利団体等の支援も行っております。「地域資源の発掘」と「地域課題の解決」を使命とした創業130年の会社です。1992年に開館した「リサイクルミュージアムくるりんこ」は様々な資源リサイクルがどのように行われるかを多数の展示品を用いて説明する資料館です。現在までに累計15,350人が見学しております。また、24時間、365日、いつでも誰でも利用頂ける資源回収拠点「リサイクルボックス」があります。古紙・空き缶等資源ごみを好きな時に出せる資源リサイクル工場「アマルク」の各店舗に近接して設置されております。また、収益金の一部を基金化して地域の集団資源回収団体と地域活動を行う非営利団体へ活動資金の一部として助成しております。総額483万円となります。その他にも「NPO法人くるりんこ」の設立と障がい者福祉事務所・ステップボードの開設による「環境×福祉」の連携事業も行っております。これらの取り組みを当市の資源リサイクルの参考にしたいと、政務調査を実施した。

荒川産業(株) 本社 喜多方市

住所 福島県喜多方市屋敷免 3960

電話番号 0241-21-1511

設立 昭和29年(1954年)

代表者 代表取締役社長 荒川健吉

資本金 2,200万円

事業内容 リサイクル業務 有機肥料製造・販売 その他 環境サービス

○リサイクルミュージアムくるりんこ(本社3階)

みんなの家庭にある「ゴミ」が、どこで、どのように、どんなふうに「資源」に生まれ変わるかを、絵、写真や現場で見ることが出来るリサイクルミュージアムです。平成6年から開館してから、多くの企業や小学校の方々が見学をしております。

政務調査日 令和7年4月22日(水) 9:50~11:15

政務調査先 矢板市 通年議会と議場の活用について
矢板市議会

政務調査目的 栃木県矢板市では議会改革を行い議会の通年議会を令和4年5月から定例会の回数を年1回とし、会期を概ね1年間としています。会議は毎年5月以降に市長が定例会を招集し、その後はすべて議長が開くこととなります。これらを当市の議会運営の参考といたく政務調査を実施した。

同席者 矢板市議会 議長 佐貫 薫
" 議運副委員長 宮本 莊山
議会事務局長 星 哲也
" 副主幹 粕谷嘉彦

1, あいさつ 矢板市議会 議長 佐貫 薫
田村市議会 政友会代表 猪瀬 明
自己紹介

- ・議場開放について、令和3年12月から議場開放、全て開放。
- ・コロナ禍時期に始まった。飲食禁止。水分補給はOK。
- ・全席使用可能。利用できない日は市のホームページで掲載。8:30-17:15
- ・夏、冬休みは利用が多い。
- ・H30年、高校生意見交換会、勉強できる場の開放、要望有。
- ・令和2年6月、要望書の提出有り。
- ・利用状況、年々減っている。市内へフリースペース出来た結果。
- ・中高生の学習の場づくり事業。
- ・議場コンサートについて。高校の音楽担当先生より提案あり。
- ・令和5年3月30日実施。一般人は傍聴席のみ。
- ・議会に興味をもってもらう事から始めた。
- ・通年議会について 議長 佐貫薫
- ・災害が多かった。それらの予算処置を専決処分が良いのか、疑問に対応。コロナ禍予算対応。通年議会へ移行。2022年5月より導入。
- ・デメリットは無い。
- ・令和3年に始まっている。専決処分対応。
- ・選挙中でも議会開催。議決が早い。市民へのサービス提供は早い。1日で完了。
- ・議会改革をすることが市民サービスに直結する。
- ・通年議会をすることには会津若松市議会より教授を受けた。

3, 御礼のあいさつ 田村市議会議員 蒲生康博 11:40

13:10 アマルク会津一ノ堰工場にて研修

- ・グループ企業、約 250 名。
- ・コンポスト課、学校給食やスーパー、酒蔵、飲食店の残渣を堆肥化。
- ・半年から 10 カ月かかる。3 種類のコンポスト。有機肥料。
- ・酒粕利用。米ぬか利用。会津ライス用堆肥づくり。
- ・別棟、障がい者就労施設。就労 B 型雇用。17 人雇用。
- ・グループ会社全 19 社+3 社で 22 社。
- ・車解体場、部品リサイクル。
- ・別棟、木材処理場見学。7/1 稼働予定。木材チップ工場。バイオ発電所へ。2 ヶ所。

14:10 施設調査終了

まとめ

福島県のゴミの排出量は、一人当たりの換算で、令和 5 年度全国ワースト 2 位でした。喜多方市に本社を置く荒川産業（株）は、様々な資源をリサイクルしている会社で、グループ企業全体 22 社、従業員約 250 名を雇用しており、会社に設置してある 24 時間、365 日誰でも利用可能な資源リサイクルボックスでの収益の一部については基金化として、地域活動を行う非営利団体へ活動資金の一部として助成をしております。市民もそれらの事業を推進したく、資源回収ボックスを積極的に利用している現状は、相乗効果で良い結果だと思われる。コンポストによる有機肥料の販売については採算性が難しいとの事であったが、学校給食等から出る食品残渣の処理については残渣を搬出する企業等にとっても、経費はかかるが避けてはとおれない問題で、これらについては排出業者も含めて継続的な企業努力を望みたい。今回のゴミ処理問題、資源リサイクルに対する取り組み等は、今後の当市ゴミ処理対策について大いに参考としたい。

2, 御礼のあいさつ 田村市議会議員 大河原孝志

3, まとめ

矢板市の議場開放については、コロナ禍により中高生の学習場所対応の要望が学生より市へあり、当時、矢板市内公共施設へはそれらに対応すべき施設が少なく、議場の開放に至ったとの事であった。コロナ禍が落ち着いた最近では、学習スペースも他に確保出来たこともあり、議場の利用者は減っているとの事であった。また、議場をコンサートの場としての開放については、市民が議会へ興味をもってもらう事から始まったことで、市の執行部、議員、市民については傍聴席での鑑賞で、市民からは好評との事であった。矢板市議会に於いての通年議会への取り組み、さらには議場の活用については、今後の当市議会運営さらには市民サービスの有り方の参考としたい。

長	局長	課長	課長補佐	係長	課員
					

様式第4号 (要綱第3条関係)


令和 7年 7月 31日

田村市議会議長 大橋 幹一 様

会 派 名 政友会

代表者名 (議員名) 猪瀬 明 

政 務 活 動 報 告 書

区 分 (○で囲む)	<u>調査研究</u> 研修 広報 広聴 会議 / 要請・陳情活動
期 間	令和 7年 7月 8日(火)～ 令和 7年 7月 10日(木)
参 加 者 氏 名	猪瀬 明 蒲生 康博 大河原孝志 橋本 紀一 吉田 一雄
訪問先の応対者 〔名刺の写し添付〕	別紙添付
場 所 〔調査、研修、訪問先 要請・陳情場所等〕	北海道石狩市 (いしかりし) ・ゼロカーボンシティ達成に向けた取り組みについて 北海道小樽市 (おたるし) ・移住支援「笑になるおたる」の取り組みについて 北海道江別市 (えべつし) ・子育て支援、子育てひろば「ぽこあぽこ」について
行 程 (別紙添付も可)	別紙添付
内 容 ・ 成 果 等	別紙政務調査報告書添付 

田村市議会議員 政友会 政務調査計画書

目的 石狩市は、ゼロカーボンシティの達成に向けた取り組みを積極的に行っている自治体であります。地球温暖化は世界的な課題です。国は「2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ」にする「ゼロカーボン(カーボンニュートラル)」を目指すとともに、自治体にも同様に取り組むことを求めています。石狩市は令和2年12月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、「2050年ゼロカーボンシティ(2050年に温室効果ガス排出量実質ゼロ)」の実現を目指すことを表明しました。「脱炭素社会」実現に向けて、様々な取り組みをしています。また、国が選ぶ「脱炭素先行地域(第1回)」の公募においても石狩市が選定されました。

次に、小樽市の移住支援「笑になるおたる」の取り組みとして、「笑」という言葉にはたくさんの意味があります。わらう、ほほえむ、なかよく、たのしく。小樽を歩いてみると、古き良き北海道の気配、繁栄の足跡、港で栄えたマチの面影、なごやかな人々、そして、山と海に囲まれた自然の中でちょうどいい暮らしに出会えます。住んでいる人も、やってくる人も、みんなが「笑顔になる小樽」へ。と題して移住に関する様々な情報発信や施策等を行っております。

次に、江別市の子育てひろば「ぼこ あ ぼこ」について、季節や天候を問わず、親子が自由に遊び、交流できる施設で、大型複合遊具などがあります。年齢ごとにスペースが区切られており、幅広い年齢の子供たちがより安心して楽しめる空間であります。事前にスマホで登録し、来館前にスマホで混雑状況を確認できたりもします。無料で利用できるのも市民からは好評です。また、子育て相談や講習や各種イベントも開催、助産師相談や食事ルームが利用できます。買い物や美容室などの理由で託児ルームを併設しております。これらを今後の当市各種施策等に参考といたく、政務調査を実施したい。

1、政務調査議員 田村市議会議員 政友会 5名
猪瀬明・蒲生康博・橋本紀一・吉田一雄・大河原孝志

2、政務調査期間 令和7年7月8日(火)～10日(木)

3、政務調査目的

- 1, 北海道 石狩市(いしかりし) 7月8日(火) 14:00～15:30
・ゼロカーボンシティ達成に向けた石狩市の取り組みについて
- 2, 北海道 小樽市(おたるし) 7月9日(水) 10:00～11:30
・「笑になるおたる」について
- 3, 北海道 江別市(えべつし) 7月10日(木) 10:00～11:30
・子育てひろば「ぼこ あ ぼこ」について

【参考】

・北海道 石狩市(いしかりし)

面積 722 km²(田村市の 1.58 倍)・人口 56,931 人 (2025 年 5 月末現在)

2005(平成 17 年)1 市 2 村が合併・議員数 20 名

石狩市は、北海道の中央西部に位置し、札幌市の北部に隣接している。アイヌ語に由来する。蛇行する石狩川を表現したものとする考え方が大勢だが、諸説ある。石狩振興局では唯一の海に接する自治体である。旧石狩市の区域は、市の全人口の 9 割弱が集中し、札幌市の衛星都市として、大規模な住宅地が形成されており、雪への対策が比較的充実しているため、特別豪雪地帯に指定されていないが、一年を通じて風が強いいため、市内には多くの防風林が設けられている。

担当部署 石狩市役所 環境市民部 環境課 環境政策担当、ゼロカーボン推進担当

0133-72-3698

議会事務局 0133-75-2280

・北海道 小樽市(おたるし)

面積 244 km²(田村市の 0.53 倍)・人口 103,445 人 (2025 年 5 月末現在)

合併なし・議員数 25 名

小樽市は北海道中部に位置している。札幌市の外港である小樽港を擁する北海道有数の港湾都市として発展してきた。また、北海道でも有数の観光都市としても人気が高い。札幌市との近さから、小樽市は札幌都市圏に含まれる。小樽運河や歴史的建造物等多く、毎年 700 万人以上の観光客が訪れていた。市町村の魅力度ランキング調査ではトップ 10 にランクインする都市である。

担当部署 小樽市役所 総合政策部 企画政策室 企画政策グループ

0134-32-4111(内線 273)

議会事務局 0134-32-4111(内線 503)

・北海道 江別市(えべつし)

面積 187 km²(田村市の 0.41 倍)・人口 117,799 人 (2025 年 6 月 1 日現在)

合併なし・議員数 25 名

江別市は、北海道の中部にあり、札幌市に隣接した市であります。日本三大河川の一つである石狩川が市内を流れ、大都市近郊で希少な大規模平地林である道立自然公園野幌森林公園があり、都市機能と自然が調和した街である。札幌のベッドタウンとして人口が増加した。稲作、酪農、畜産などの多様な農業が行われ、特産である小麦「ハルユタカ」による「江別小麦めん」は全国的に高い評価を得ている。またね市内には酪農や獣医学に特化した酪農学園大学なども存在している。

担当部署 江別市役所 子ども育成課子育て支援センター事業推進担当

子育て支援センターすくすく 011-381-1920

議会事務局 011-381-1051

行程

1日目 7月8日(火) 14:00~15:30
田村市役所→→福島空港発 9:35→→新千歳空港着 11:10→→石狩市役所→→小樽市内泊
7:30 (40 km) 11:30 発 (70 km) (40 km)

1

2日目 7月9日(水) 10:00-11:30
小樽市内ホテル→→小樽市役所 →→江別市内泊
8:30 (2 km) (60 km)

3日目 7月10日(木) 10:00-11:00
江別市内ホテル→→江別市役所→→新千歳空港発 15:15→→福島空港着 16:45→→
8:30 (3 km) (50 km)
18:00
→→田村市役所着
(40 km)

全行程約 305 km

宿泊先

- ・7月8日 ホテルノルド小樽
北海道小樽市色内 1-4-16 0134-24-0500
- ・7月9日 ホテルリポーン野幌
北海道江別市東野幌本町 6-43 011-391-8677

田村市議会議員 政友会 政務調査実施報告書

政務調査議員 政友会 猪瀬 明 蒲生康博 橋本紀一
吉田一雄 大河原孝志

政務調査日 令和7年7月8日(火) 13:55～15:20

政務調査先 北海道 石狩市(いしかりし)
・ゼロカーボンシティ達成に向けた石狩市の取り組みについて
石狩市役所 環境市民部 環境課 環境政策担当、
ゼロカーボン推進担当

政務調査目的 石狩市は、ゼロカーボンシティの達成に向けた取り組みを積極的に行っている自治体であります。地球温暖化は世界的な課題です。国は「2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ」にする「ゼロカーボン(カーボンニュートラル)」を目指すとともに、自治体にも同様に取り組むことを求めています。石狩市は令和2年12月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、「2050年ゼロカーボンシティ(2050年に温室効果ガス排出量実質ゼロ)」の実現を目指すことを表明しました。「脱炭素社会」実現に向けて、様々な取り組みをしています。また、国が選ぶ「脱炭素先行地域(第1回)の公募においても石狩市が選定されました。これらの取り組みを当市のゼロカーボンシティ推進の参考にしたいと、政務調査を実施した。

石狩市の概要 面積 722 km²(田村市の1.58倍)・人口 56,931人(2025年5月末現在)
2005(平成17年)1市2村が合併・議員数 20名
石狩市は、北海道の中央西部に位置し、札幌市の北部に隣接している。アイヌ語に由来する。蛇行する石狩川を表現したものとする考え方が大勢だが、諸説ある。石狩振興局では唯一の海に接する自治体である。旧石狩市の区域は、市の全人口の9割弱が集中し、札幌市の衛星都市として、大規模な住宅地が形成されており、雪への対策が比較的充実しているため、特別豪雪地帯に指定されていないが、一年を通じて風が強いため、市内には多くの防風林が設けられている。

説明者 環境市民部 環境課 ゼロカーボン推進担当 主査 角井貴博

1. あいさつ 田村市議会議員 政友会代表 猪瀬 明

2. あいさつ説明 ゼロカーボン推進担当 主査 角井貴博

- ・市の概要 平成5年の庁舎。35年目。北海道で35番目の市。
- ・平成17年に合併。1市2町合併。62千人。令和7年, 56, 931人。
- ・議員1名減。手話講座に取り組んでいる。イクラ有名。面積は28番目。石狩鍋。漁師の料理。石狩灯台は北海道で一番古い。
- ・コストコ石狩倉庫店。ネットで2位。黄金山。形が綺麗な山。
- ・令和2年12月、「ゼロカーボンシティ宣言」。令和4年4月、「脱炭素先行地域」
- ・石狩市環境基本計画、区域施策編。
- ・石狩市オフセット、クレジット。11,000 令和12年、48%減。10,000販売。
- ・省エネ機器購入補助金。宅配ボックス補助金。
- ・資源循環の取り組み。ペットボトル→ペットボトルへリサイクル。
- ・熱中症対策、9施設。
- ・「デコ活」エアコン、冷蔵庫、エコ給湯購入補助金。
- ・資源循環アプリ。ゴミの分別収集日等。
- ・ナッジの取り組み、電気スイッチにシール張る。
- ・ゴミ、資源、水平リサイクル。ペットボトルからペットボトルへ。全量ペットボトルへのリサイクル推進。
- ・事務事業(市役所) 公共施設のLED化。143ヶ所、100%LED化。
- ・公用車の次世代化。EV車。雪国は難しい。
- ・グリーン購入。消耗品購入。環境ラベル品購入推奨。
- ・公共施設における再エネ導入ポテンシャル調査事業。
- ・再生可能エネルギーの地産地活に関する連携協定。風力発電等。生産電力は道内で使用。
- ・市内電力、市内23施設で使用。4者協定。
- ・マイクログリッド構築。小規模電力。災害時の対応。5億、太陽光発電。10割補助。当初は令和4年度稼働。
- ・脱炭素先行地域。概要、風力、バイオマス(1社建設中)、太陽光。石狩湾新港地域。
- ・洋上風力発電 14基 112,000kW。全国で2ヶ所。
- ・中心核 マイクログリッド。市役所周辺。
- ・環境教育。学校へ出前授業。小学5年生。議場を使つての発表会。
- ・石狩市が目指す再エネの地産地活。取り組む背景、2012, 13年エネルギー政策、国の流れで提案、市で進めた。事業費は別紙による。
- ・今後の課題、展望。燃料の省エネ化。2030年以降、燃料を減らしていきたい。
- ・石狩市のオフセットクレジット。
- ・LED、10年リース。保証付き定額リース。公共施設。
- ・市民風力発電 2005年完成。市民からの寄付で建設。耐用年数、もって25年位か。
- ・環境教育、高校は現在無し。
- ・各補助金、予算以上の申し込み。抽選で選定。継続で進めたい。
- ・CO2排出量、1,370t削減。使用量に数値を掛けて算出。

3, 御礼のあいさつ 田村市議会議員 蒲生康博

4, まとめ

国は「2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ」にする「ゼロカーボン」を目指すとともに、各自治体でも様々な活動、事業を実施しております。当市においても、「田村市地球温暖化対策実施計画」に基づき、削減目標を達成するために取り組んでいるが、今回政務調査を行った石狩市は目標達成に向け、具体的に様々な事業展開をしている先進自治体であります。今後、当市の「ゼロカーボン」目標達成に向け参考としたい。

政務調査日 令和7年7月9日(水) 10:00~11:40

政務調査先 北海道 小樽市(おたるし)

・「笑になるおたる」について

総合政策部 企画政策室 企画政策グループ

政務調査目的 小樽市の移住支援「笑になるおたる」の取り組みとして、『「笑」という言葉にはたくさんの意味があります。わらう、ほほえむ、なかよく、たのしく。小樽を歩いてみると、古き良き北海道の気配、繁栄の足跡、港で栄えたマチの面影、なごやかな人々、そして、山と海に囲まれた自然の中でちょうどいい暮らしに出会えます。住んでいる人も、やってくる人も、みんなが「笑顔になる小樽」へ』と題して移住に関する様々な情報発信や施策等を行っております。これらの事業施策等を当市の移住支援の参考にしたいと、政務調査を実施した。

小樽市の概要 面積 244 km² (田村市の 0.53 倍)・人口 103,445 人 (2025 年 5 月末現在)・合併無・議員数 25 名

小樽市は北海道中部に位置している。札幌市の外港である小樽港を擁する北海道有数の港湾都市として発展してきた。また、北海道でも有数の観光都市として人気が高い。札幌市との近さから、小樽市は札幌都市圏に含まれる。小樽運河や歴史的建造物等多く、毎年 700 万人以上の観光客が訪れていた。市町村の魅力度ランキング調査ではトップ 10 にランクインするとしてある。

同席者 小樽市 総合政策部 企画政策室主幹(人口対策担当) 渡邊伸祐
議会事務局 次長 加藤佳子
〃 総務係 書記 菅 翔太

1, あいさつ 議会事務局 次長 加藤佳子
田村市議会議員 政友会代表 猪瀬 明

2, あいさつ・説明 総合政策部 企画政策室主幹(人口対策担当) 渡邊伸祐

・「笑になるおたる」令和4年度、移住施策。

・1960年、昭和35年、198,000人。鉄道、北海道でいち早く開通。

・北海道の玄関口として発展。小樽運河、半分埋め立て、半分残す。

・800万人/年間の観光客。2020年国勢調査、111,000人。人口減少、高齢化率高く。

・2,000人/年間減少、平成17年から。出生数300人位。

- ・合計特殊出生率、2023年（0.93）。28%減少、20年間で。
- ・小樽市は坂のまち。札幌市へJRで30分。
- ・江別市まで20分。札幌市寄り。高速IC。千歳市、空港、企業等。
- ・恵庭市、札幌市のベッドタウン。
- ・小樽市は人口減少のハンディがある。2020年、高齢化率40%超える。
- ・小樽市に働いているのに、小樽市に住んでいない。
- ・昼夜間人口比率、移住促進のターゲットになり得る人。
- ・1,772人増。流入超過人数、男-製造業、女-医療関係。
- ・昨年、小樽市総合戦略作成。人口対策、移住促進事業。情報収集発注。移住体験。仕事、住まい、移住後。
- ・移住情報サイト「笑になるおたる」移住支援金。東京23区から移住。北海道内へ。
- ・小樽市の移住施策、移住支援金。中古住宅購入補助金。持ち家、転出が少ない。
- ・祖父母同居、出生率が高い。
- ・移住情報サイト「笑になるおたる」アクセス数5,200回/令和6年度。
- ・(株)アナザーワークス、アドバイスいただく。6ヶ月無償。
- ・移住相談受付、1つにすることでサービスアップ。商工会議所。仕事の相談もできる。
- ・平成17年度～令和6年度、計368人の移住実績。
- ・札幌圏、移住促進でPR。首都圏でのPR。小樽のイベント発信、(株)FM。
- ・(株)タイミーと連携協定。移住体験事業。小樽市のファンになってもらう。関係人口の増加を目指す。
- ・親子ワーケーション、主に首都圏の保育、1～2週間住んでもらう事業。
- ・ウェルネスタウン、商工施設の中で体験。
- ・移住者ミーティング、移住者が営む飲食店で意見交換。
- ・コミュニティ、市内散策ツアー。
- ・移住者コミュニティ。おたるひと旗クラブ。130人登録。

3、御礼のあいさつ 田村市議会議員 蒲生康博

4、まとめ

小樽市は港で栄えたまちであった。人口のピーク時、1960年頃には20万人弱の人々が住んでいたがその後人口減少が続いた。観光客は年間800万人と魅力的な観光都市である。急激な人口減少対策として、移住対策に様々な施策を実施しており、実績にもそれらの成果が表れている。当市においても人口減少が急激に進んでおり、今回の小樽市の移住施策等を十分に参考にしたい。

政務調査日 令和7年7月10日(水) 10:00~11:30

政務調査先 北海道 江別市(えべつし)

・子育てひろば「ぽこ あ ぽこ」について

子ども家庭部 子ども育成課 子育て支援センター詩行推進担当

政務調査目的 江別市の子育てひろば「ぽこ あ ぽこ」について、季節や天候を問わず、親子が自由に遊び、交流できる施設で、大型複合遊具などがあります。年齢ごとにスペースが区切られており、幅広い年齢の子供たちがより安心して楽しめる空間であります。事前にスマホで登録し、来館前にスマホで混雑状況を確認できたりもします。無料で利用できるのも市民からは好評です。また、子育て相談や講習や各種イベントも開催、助産師相談や食事ルームが利用できます。買い物や美容室などの理由で託児ルームを併設しております。これらを今後の当市各種施策等に参考といたし、政務調査を実施した。

江別市の概要 面積 187 km²(田村市の 0.41 倍)・人口 117.5 千人・合併無し・議員数 25 名
江別市は、北海道の中部にあり、札幌市に隣接した市であります。日本三大河川の一つである石狩川が市内を流れ、大都市近郊で希少な大規模平地林である道立自然公園野幌森林公園があり、都市機能と自然が調和した街である。札幌のベッドタウンとして人口が増加した。稲作、酪農、畜産などの多様な農業が行われ、特産である小麦「ハルユタカ」による「江別小麦めん」は全国的に高い評価を得ている。また市内には酪農や獣医学に特化した酪農学園大学なども存在している。

同席者 江別市 子ども家庭部 子ども育成課 子育て支援センター事業推進担当
参事 吉岡ひとみ
市議会副議長 徳田 哲
議会事務局 総務課 庶務係 係長 深見亜優

1, あいさつ 市議会副議長 徳田 哲

・石狩川, 平地原生林、昔からの森林。40%農地。水とみどりに恵まれたまち。隣が札幌市。118 千人。7 番目の都市。国道 5。インターチェンジ 2ヶ所。JR 駅 5 駅。札幌まで 20 分。子育て世代呼び込み重要。

「ぽこ あ ぽこ」無料での遊び場提供。

田村市議会議員 政友会代表 猪瀬 明

2, あいさつ説明 参事 吉岡ひとみ

・満足度向上させようと発足。1,400 世帯のアンケート調査。70%の方、子ども遊べる場所ほしい。

- ・元イトーヨーカドー2F撤去後に入居。平成25年、江別市直営で。
- ・正月1、2日のみ休み。月1日は休館日。0～小学6年生までの遊び場。
- ・市内には8ヶ所、子育て支援センター。
- ・会員登録すれば市外の方も利用できる。商業施設の中へ入れたのが良かった。
- ・職員は非常勤職員。
- ・利用者、市内より市外の方が多い。北広島市、札幌市。
- ・冬季、屋内遊び場が人気。外で遊べない。インスタ見て来る人が多い。
- ・有料託児サービス。3時間まで利用できる。1時間300円。利用者増えている。昨年620名。
- ・企業PR、8社と連携。子育て関連講習会。
- ・まちなか仕事プラザ、就労支援行っている。寄附金頂いている。
- ・運営費、令和6年度、26百万円。令和7年度、27百万円程度。店舗の賃借料令和6年度、480万円/年間含んで。職員駐車料、10万。光熱費、電気水道等。
- ・子育てひろば、事故等への対応、総合補償制度へ加入。事故、開設から6件。12年目。
- ・大型遊具、骨折、滑り台での事故。ヒビが入った。足の指の骨折とう。
- ・令和5年にリニューアル。見渡せるように遊具配置。カメラ4台、モニター。
- ・安全性、エリア分けして遊ばせている。事故防止。
- ・今後の課題、利用者が多い。遊具の損傷が多い。予想外のコスト高。東京からの輸送料。補修費が割高。計画的入れ替え必要。
- ・子育て支援施設、8ヶ所。保育園、16ヶ所。認定保育園、10ヶ所。小規模保育園、9ヶ所。幼稚園、5ヶ所。
- ・保護者同伴原則。子育てとコミュニケーションしてもらう目的。
- ・名札付けてもらう、子どもには。
- ・利用状況を見て来ていただく。混雑防止。予約制度はしていない。
- ・移住、転入の観点からも無料にしている。リアルタイムでサイト発信している。
- ・出生数は横ばいか。

3, 御礼のあいさつ 田村市議会議員 蒲生康博

4, まとめ

江別市の子育てひろば「ぼこ あ ぼこ」は市民アンケート調査により、子どもが安心して遊べる場が欲しいとの、市民の声により整備された屋内遊び場であります。施設の利用は無料で、江別市民以外であっても利用料金は無料です。有料の託児ルームも併設しており、そのために市外の利用者の方も多く、商業施設で駐車場や買い物等も充実しており、利用者の満足度は高いとのことであります。子育て環境の整備、それらが市の魅力度アップに繋がり移住定住にも関連して魅力あるまちづくり、これらの施策を当市の関連事業等推進の参考としたい。

様式第4号 (要綱第3条関係)



令和 7年 11月 28日

田村市議会議長 大橋 幹一 様

会 派 名 政友会
代表者名 (議員名) 猪瀬 明

政 務 活 動 報 告 書

区 分 (○で囲む)	<u>調査研究</u> 研修 広報 広聴 会議 / 要請・陳情活動
期 間	令和 7年 11月 4日(火)～ 令和 7年 11月 6日(木)
参 加 者 氏 名	猪瀬 明 蒲生 康博 大河原孝志 吉田 一雄
訪問先の対応者 [名刺の写し添付]	別紙添付
場 所 [調査、研修、訪問先 要請・陳情場所等]	栃木県 鹿沼市 (かぬまし) 東京都 福島県東京事務所 茨城県 牛久市 (うしくし)
行 程 (別紙添付も可)	別紙添付
内 容 ・ 成 果 等	別紙政務調査報告書添付

行程

1日目 11月4日(火) 10:00~11:30

田村市役所 →→→ 鹿沼市役所 →→→ 千代田区内泊
6:30 (170 km) (130 km)

1

2日目 11月5日(水) 10:00-11:00

千代田区内ホテル →→→ 福島県東京事務所 →→→ 流山市内泊
9:00 (1 km) (40 km)

3日目 11月6日(木) 10:00-11:30

流山市内ホテル →→→ 牛久市役所 →→→ 田村市役所着
8:30 (50 km) (210 km) 18:00

全行程約 610 km

宿泊先

- ・11月4日(火) ホテルルポール麹町
東京都千代田区平河町2-4-3 03-3265-5361
- ・11月5日(水) 東横INN流山おおたかの森駅前
千葉県流山市おおたかの森西1-2-6 04-7154-1045

田村市議会議員 政友会 政務調査実施報告書

政務調査議員 政友会 猪瀬 明 蒲生康博 橋本紀一
吉田一雄 大河原孝志

政務調査日 令和7年11月4日(火) 10:00～11:30

政務調査先 栃木県 鹿沼市(かぬまし)
・消防団地域防災力充実強化ビジョンについて
鹿沼市消防本部 消防総務課 消防団係

政務調査目的 栃木県鹿沼市は、近年の災害等による甚大な被害を受け、それらの対策等に地域防災力の強化が急務になってきていることから「消防団地域防災力充実強化ビジョン」を策定している。本ビジョンでは消防団を地域防災の中核として位置づけ、市民の安全を守るための体制強化を目指す5年間の計画(令和4年度～令和8年度)を策定し、市民参加型の防災体制を構築されている。これらの活動推進施策等を当市の防災力強化の参考にしたく、政務調査を実施した。

鹿沼市の概要 面積 490 km²(田村市の 1.07 倍)・人口 89.8 千人・2006(平成 18 年)1 市 1 町が合併・議員数 23 名

鹿沼市は、栃木県のほぼ中央に位置し、北は日光市、東は宇都宮市、南は栃木市、西は佐野市に接する。歴史的に日光との結びつきが深く、古くから県西の政治、経済の中心である。中世より鹿沼城の城下町として栄え、その後、日光西街道の宿場町を経て、商工業都市へと発展し今日に至っている。全国的に有名な鹿沼土やサツキをはじめ、いちご、にら、こんにゃく、鹿沼そば等の農業生産も盛んで、他に、かぬまシウマイ、鹿沼ホウキ、木工品等、最近では特産や名物の多いことが市の特色になりつつある。

同席者	鹿沼市議会	議長	谷中恵子
	鹿沼市消防本部 消防総務課消防団係	係長	福富健太
	〃	消防士長	上野祐輝
	議会事務局議事課長補佐兼庶務係長	荻原 哲	

1, 歓迎のあいさつ 鹿沼市議会 議長 谷中恵子

栃木県はイチゴ全国一。鹿沼市はイチゴ生産第三位。鹿沼土。

合併時人口約10万人。現在9万人弱。

消防団員数少ない、対応。いろんなアイデア出してもらっている。

2, あいさつ 政友会 猪瀬 明

3, 説明者紹介 鹿沼市消防本部 消防総務課 消防団係

4, 説明 「消防団地域防災力充実強化ビジョン」について

消防総務課消防団係 係長 福富健太

- ・ 1本部、15分団、49部体制。条例定員数770人。実員数704名。
- ・ 機能別団員を市では支援団員としている。災害時のみ。定数150人、5,000円/年額。
- ・ 出動報酬額 7時間45分まで4,000円。7時間45分以上8,000円。
- ・ 保有車両53台。
- ・ 平成27年の災害を機に強化ビジョンを策定。
- ・ 二つの河川、面川、黒川。台風19号災。河川沿いの浸水被害。
- ・ 最悪の被害を想定し、消防団を中核とした地域防災力強化を推進するために。
- ・ 充実強化ビジョン。団員確保に向けた取り組み。全団員へのアンケート調査を実施。
- ・ 減員が多い。報酬等適正化委員会を設置。
- ・ 団員定数、835人→770人。報酬等の改善、出動2,000円→8,000円。
- ・ 市役所→団員口座へ直接支給。
- ・ 消防団員サポート店、100店舗、団員確保へ。
- ・ 消防団のイメージアップ、訓練が厳しい。酒飲み多い。
- ・ 女性部＝名称「第15分団（いちご分団）」。定数20名。現在17名。
- ・ PR動画作成、イメージアップ。
- ・ トレーディングカード18種類。
- ・ 他機関との連携。消防フェスティバル実施。
- ・ 団員確保へ向けた施策。防災教育実施、学校等で。

今後の課題

- ・ 安全装備品が足りていない。
- ・ 地域理解の促進。
- ・ サポート店100店舗。販売店、飲食店等。
- ・ 毎年50人退職。退職金は別途規定。
- ・ 夜警手当、2,000円。
- ・ 鹿沼市消防本部の管轄は鹿沼市のみ。

5, 御礼のあいさつ 政友会 蒲生康博

6,まとめ

近年の災害は多発化、激甚化しており、鹿沼市においても平成27年の豪雨災害や、2019年の台風19号の豪雨災害により甚大な被害を受けている。また、今後起こるであろう「首都直下型地震」等の災害対応にも地域防災力強化は必然的に重要である。鹿沼市では地域防災の最も大事な消防団員の確保に様々な施策等を実施している。処遇改善に団員数の改正、報酬額の見直し、団員の活動負担軽減策等、団員の意見を十分に参考に改善等を図り団員確保に努力をしている。これらの様々な施策等を当市の消防団地域防災力強化の参考にしたい。

政務調査日 令和7年11月5日(水) 9:55~11:00

政務調査先 東京都 福島県東京事務所
・地域振興、都市連携について
・首都圏での観光PR、誘客について
東京都千代田区平河町2-6-3 (都道府県会館12階)

政務調査の目的 福島県東京事務所は「企画交流課」「企業誘致課」の2課体制であり、特に、東日本大震災以降は、首都圏における県産農林水産物を始めとする県産品や観光への風評払しょくに向けて、本県の魅力ある情報発信に取り組んでいる。
田村市の今後における地域活性化策施策のため、福島県東京事務所において、地域振興・都市連携関連、首都圏での観光PR・誘客関連等について、事例や各種施策等について方策を伺いたく、政務調査を実施した。

同席者	福島県東京事務所	所長	國分健児
	〃	次長兼企画交流課長	橋本晃一
	〃	主任主査	遠藤祐子
	〃	主査(キャップ)	上野拓哉
	〃	企画誘致課 課長	佐藤時則
	〃	主幹兼副課長	沢田敦司

1, あいさつ 福島県東京事務所 所長 國分健司

2, 説明 次長兼企画交流課長 橋本晃一

- ・東京事務所の外に、北海道・名古屋事務所がある。
- ・東京事務所は2課体制。職員19名。県内からは2名派遣、郡山市、喜多方市。
- ・物産展の開催。県産農産物PR。ワークショップ。
- ・本県のファン増を目指している。
- ・国会、省庁等との連絡調整。情報の収集等。
- ・企業誘致の推進。昨年1,200件の対面活動。
- ・移住定住の推進。移住に伴う相談対応。
- ・東京福島県人会、現在約2,600名。
- ・市町村からの事務研修生を募集している。
- ・首都圏企業との連携事業。成功例、喜多方市ユニフォームネットの染物や、鏡石町、東京甘酒。田んぼアート撮影等
- ・二拠点生活の推進。

- ・観光資源、東京でのPR状況。地下通路にパンフレット。ホームページ情報登録。
- ・田村市、東京リクルートセンターとの連携。
- ・田村市の課題感重要。企業誘致、積極的誘致願いたい。
- ・日本橋酒まつりが盛況。10年くらい金賞獲得数は日本一。

3, 御礼のあいさつ 政友会 蒲生康博

4, まとめ

福島県東京事務所においては、二課体制で福島県と首都圏をつなぐ様々な情報発信・企業誘致等の営業活動を行っている。それらの結果ともいえる令和6年度は、本市への移住相談件数が2万件余、過去最多で全国2位との報道もされた。当市においても人口減対策、観光客誘致、企業誘致等あらゆる方向性を探る施策の展開が望まれる。今後、当市も福島県東京事務所と情報等の共有を図りつつ、多方面にわたる営業活動を実施すべく、今後の参考としたい。

政務調査日 令和7年11月6日(木) 10:00～11:30

政務調査先 茨城県 牛久市(うしくし)
・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動(うしくカップ塾)について
牛久市役所 教育委員会 生涯学習課 生涯学習推進グループ

政務調査目的 茨城県牛久市では、すべての小・中の義務教育学校でコミュニティ・スクールを導入しており、保護者や地域住民が学校運営に参画し、子どもたちの「生きる力」を育むこと、地域の知恵や経験を活かしながら、子どもたちが主体的に学ぶ環境づくりが進められている。これらの取り組みを当市の教育振興に参考にしたいと、政務調査を実施した。

牛久市の概要 面積 59 km²(田村市の 0.13 倍)・人口 83,200 人・合併無・議員数 22 名
牛久市は、茨城県の県南地域に位置する市。東京都心や県庁所在地の水戸市からそれぞれ約 50 キロ程度の位置にある。南北に JR 常磐線が通り、所要時間は、牛久駅やひたち野うしく駅から都心まで約 1 時間である。2016 年には人口 85,000 人を超えた。その後、2017 年をピークに人口は減少傾向にある。2015 年の国勢調査によると、市外への通勤・通学率は、つくば市が 14.7%、東京都が 13.3%となっている。市東部には仏像の牛久大仏がある。
※ 牛久大仏は、1995 年、「青銅製仏像」で世界一高いとしてギネス世界登録に認定されている。全高 120m、展望台 85m

同席者 鹿沼市議会 議長 小松崎 伸
牛久市教育委員会 教育部長 小川茂生
" 生涯学習課 主事・社会教育主事 多田光希
議会事務局 局長 大里明子

進行 議会事務局 局長 大里明子

1, 歓迎のあいさつ 鹿沼市議会 議長 小松崎 伸
東京から約 50 km。日本遺産、牛久社トレー。
牛久大仏、世界一。
田村市あいさつ 政友会 猪瀬 明

2, 説明 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動(うしく放課後カップ塾)について
生涯学習課 主事・社会教育主事 多田光希

- ・東京から約50km、稀勢の里の出身地。世界最大の牛久大仏120m。
- ・牛久沼。(カッパ伝説)。
- ・日本遺産、牛久シャトレー。ワイン醸造所。日本最初。
- ・児童生徒、約6,000人。
- ・コミュニティスクール、7年目を迎えた。
- ・特別な支援必要とする子ども達が増えている。
- ・子どもたちの未来、地域と学校が連携し、育てていく事が必要。
- ・学校運営や支援、地域と共にある学校づくり。
- ・コミュニティスクール(学校運営協議会)。学校運営方針～学校評価。授業を見ていただく。
- ・課題。学校運営協議会では、校長・教頭等管理職との協議のみ。
- ・学年先生との懇談会の要望あり。懇談会の成果、授業協力、参画につながる。
- ・不登校生徒の居場所づくり。ひだまりカフェの開催。
- ・特別支援学校の子供たちが生産した野菜の販売をしている。
- ・各学校単位で様々な形式で運営している。かっぱ祭り。踊りの参加等。
- ・どの地域でも高齢化による減少しているが学生達が力となった。参画と手伝い。
- ・PTAの存続が難しい。会員の減少。
- ・CS代表交流会。年1回実施。
- ・放課後カッパ塾(すべての小・中学校で実施)。週2回、1回90分、各学校で無料。
- ・指導員、元教員等で指導。49名の登録者。学校ごと3名を配置。
- ・土曜のカッパ塾、全ての小学校で実施。体験学習、年1～4回、無料。
- ・学校施設を利用。防災キャンプ～プログラミング教室。
- ・地域学校協働活動推進員、40名。
- ・給食配膳ボランティア。新1年生。
- ・中学生による地域のまつりボランティア。
- ・学校では人手が足りず地域の支援が助かる。
- ・成果、地域の良さの実感。子供と向き合う時間が出来た。
- ・小学校と中学校の連携はなかなか難しい。
- ・地域学校協働活動推進員。謝金1,200円/時間。

3, 御礼のあいさつ 政友会 蒲生康博

4, まとめ

牛久市では、すべての小・中学校でコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入しており、保護者や地域住民が学校運営に参画し、子どもたちの「生きる力」を育むこと、地域の知恵や経験を活かしながら、子どもたちが主体的に学ぶ環境づくりが地域一体となり進められている。学校だけでは人手が足りず、また、地域においても児童生徒の参画を促し共に歩む学校づくりを、当市の教育環境づくりの参考としたい。